

カンファレンスコール開催日：2025 年 11 月 10 日

2026 年 3 月期（2025 年度）第 2 四半期決算 カンファレンスコール 内容説明スクリプト

I. 全般概況

本日発表いたしました 2025 年度第 2 四半期連結決算 および 2025 年度連結業績予想の概要についてご説明いたします。事業環境や概況等につきましては、決算短信や決算説明資料の 2 ページ、3 ページに記載していますので、のちほどご参照ください。

1. 2026 年 3 月期（2025 年度）第 2 四半期 連結決算 業績概要

はじめに、2025 年度第 2 四半期の連結決算の概況をご説明します。説明資料の 7 ページをご覧ください。

2025 年度第 2 四半期の金属価格および為替レートの実績についてご説明します。左下をご覧ください。

3 月決算会社に適用される 4-9 月平均の前年対比については、銅と金の価格は上昇、ニッケルの価格は下落、為替は円高となりました。

12 月決算会社に適用される 1-6 月平均の前年対比についても、銅価格と金価格は上昇、ニッケルの価格は下落、為替は円高となりました。

連結税引前利益は、前年同期間に比べ、48 億円増加し、778 億円となりました。

7 ページ上段のグラフにお示ししている通り、ニッケル価格が下落し、前年度損益を押し上げた在庫評価損益は円高進行により剥落したものの、既存の銅鉱山と金鉱山に加え、ケブラダ・ブランカ銅鉱山とコテ金鉱山の立ち上がりにより、銅価格と金価格の上昇の恩恵を享受できたこと、また、数量差やコスト単価差の好転などが増益の主な要因です。

2. 2026 年 3 月期（2025 年度）連結決算予想

今回見直しました 2025 年度の連結業績予想の概況をご説明します。説明資料の 12 ページをご覧ください。

業績予想の前提とした金属価格および為替レートについてご説明します。左下をご覧ください。

3 月決算会社に適用される 4-3 月平均の前回予想対比については、銅と金の価格は上昇、ニッケルの価格は下落、為替は円安と想定しています。

12 月決算会社に適用される 1-12 月平均の前回予想対比についても、銅価格と金価格は上昇、ニッケルの価格は下落、為替は円安と想定しています。

その前提のもとで見直した 11 月予想では、連結税引前利益は、1,210 億円と、前回 8 月予想から 190 億円の好転を予想しています。

その主な増減要因は 12 ページ上段のグラフでお示しているとおりです。

銅価格と金価格は前回予想よりも高い水準で推移すると想定する一方、主にケブラダ・ブランカ銅鉱山の生産計画下方修正による数量差とコスト単価差の悪化を想定しています。

なお、今回の予想には、今年度中に発現する可能性がある減益要因「リスク要因」はおり込んでいません。

3. 2025 年度 実力損益（業績予想ベース）

説明資料の 12 ページに掲載したグラフの右端に、2025 年度の「実力損益」の予想を掲載しています。これは、2025 年度 11 月業績予想から、金属価格や為替の変動局面において発生する要因と、その他の特殊要

因を除いたものです。

今回の業績予想における 2025 年度の実力損益は、前回から 100 億円の上方修正となる「1,200～1,100 億円」と想定しています。銅と金の価格の上昇などがその要因です。

当社の事業特性上、前提となる金属価格や為替の変動に応じた実力損益の変動は避けられないものですが、それぞれの前提条件のもとで利益を最大化するべく、引き続き、安定操業の維持、生産効率の向上、および成長戦略の推進に取り組んでまいります。

4. 配当について

配当についてご説明します。

当社の配当に関する方針については、「剰余金の配当は、原則連結配当性向 35%以上とし、下限指標は DOE2.5%とする」としています。

今回、業績予想を見直した結果、2025 年度の年間配当額は、配当性向 35%よりも DOE2.5%の方が大きくなる見込みであることから、DOE2.5%を適用することとし、その結果、1 株当たりの年間配当金の予想は、8 月時点と同じ 1 株当たり 131 円となり、当期の中間配当額はその半分の 1 株当たり 65 円といたします。

配当方針：「剰余金の配当は、原則連結配当性向 35%以上とし、下限指標は DOE2.5%とする」
DOE（連結株主資本配当率）

$$= \text{年間配当総額} \div (\text{前年度末「親会社の所有者に帰属する連結純資産」} - \text{前年度末「その他の資本の構成要素」})$$

II. 売上総利益、セグメント利益の内訳他の詳細

ここからは、説明資料にもとづき、ポイントとなる部分のみご説明いたします。

1. 2025 年度第 2 四半期累計決算 vs 2024 年度第 2 四半期累計決算

まず 2025 年度第 2 四半期累計決算と 2024 年度第 2 四半期累計決算の比較について説明します。

1) 20 ページ 実績比較 資源セグメント

それでは、説明資料の 20 ページ 損益分析 セグメント別－1 をご覧ください。

まず資源セグメントの売上総利益について説明します。

【資源セグメントの売上総利益】509 億円（219 億円の増益）となりました。

①菱刈鉱山（3 月決算）

サステナビリティ重視の操業方針に従い、平均品位での採掘を行っており、2025 年度は、年間販売量を 3.5t/年とし計画的に操業を行っています。2024 年度同期間と比べ、金価格の上昇により価格差が好転しています。

②コテ金鉱山（12 月決算会社）

コテ金鉱山は、順調にランプアップを進めています。なお、コテ金鉱山は 2024 年 3 月末から生産を開始したため、2025 年度第 2 四半期累計との比較において、その差は数量差としています。

③海外銅鉱山（おもにモレンシー銅鉱山：12月決算会社）

モレンシー銅鉱山は、12月決算会社に適用される1-6月の銅価格の上昇により価格差が、また、操業コスト削減や効率向上の取り組みの成果等によりコスト単価差が好転しました。

次に持分法投資損益について説明します。

①セロ・ベルデ銅鉱山、カンデラリア銅鉱山（いずれも12月決算会社）

主に12月決算会社に適用される1-6月の銅価格上昇により価格差が好転し、いずれも増益となりました。

②ケブラダ・ブランカ銅鉱山（12月決算会社）

ランプアップ中であった前年同期間に比べ、コスト単価は改善しており、加えて12月決算会社に適用される1-6月の銅価格上昇の追い風もあって損益は改善しています。

次にセグメント損益について、補足します。

ケブラダ・ブランカ銅鉱山開発に際し、当社が現地の銅鉱山運営会社に対して必要資金の融資を行っており、その融資に対する受取金利が含まれています。

2) 21 ページ 実績比較 製錬セグメント

それでは、説明資料の21ページ 損益分析 セグメント別－2をご覧ください。

次に製錬セグメントについて説明します。ページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。

【製錬セグメントの売上総利益】214億円（203億円の減益）となりました。

銅系では2024年度に為替の円安進行により損益を押し上げた在庫評価損益の剥落、加工収入（TC/RC）が低下したことによる価格条件差の悪化、ニッケル系でも価格低迷による価格条件差の悪化と在庫評価損益の悪化がその要因です。

①銅系

a) 好転要因：

- ・コスト単価差：東予工場の操業費用の低下によるものです。
- ・その他：主に副産品である硫酸価格の上昇によるものです。なお、硫酸はフィリピンのHPALにおける主要操業資材のため、硫酸価格の上昇は銅系では利益に貢献しますが、ニッケル系ではコスト単価の悪化につながります。

b) 悪化要因：

- ・価格条件差：2025年度は2024年度に比べ、加工収入（TC/RC）が悪化しているためです。

②ニッケル系

a) 好転要因：

- ・コスト単価差：硫酸価格の上昇による影響はあるものの、各拠点の操業費用の低下とCBNCの減価償却費減などによるものです。

b) 悪化要因：

・価格条件差：ニッケル価格の下落により悪化しました。

→ニッケル系は、加工収入が金属価格に連動する「シェアリング」という制度が適用されるため、金属価格の変動が業績に大きな影響を与えます。

3) 22 ページ 実績比較 材料セグメント

それでは、説明資料の 22 ページ 損益分析 セグメント別－ 3 をご覧ください。

材料事業の製品群別売上高です。

電池材料については、順調に操業を続けていますが、販売価格に連動する金属価格が下がったため、減収となりました。

機能性材料については、パッケージ材料の一部製品の事業環境悪化と、2024 年度に譲渡した建材事業の売上剥落により「その他」が減収となりましたが、粉体材料については、堅調に推移しました。

次にセグメント損益について説明します。

機能性材料事業は、第 1 四半期に続き、データセンター関連の電子部品向け部材（粉体材料、結晶材料）の需要が堅調であったため、増益となりました。

2. 2025 年度 11 月予想 vs 8 月予想

続いて、2025 年度の 11 月予想と 8 月予想の比較について説明します。

1) 23 ページ 2025 年度 11 月予想 vs 8 月予想 損益分析

それでは、説明資料の 23 ページ 損益分析をご覧ください。

まず、前提となる金属価格、為替の平均について説明します。ページ右上のボックスをご覧ください。

銅価格は上昇、ニッケル価格は同水準、金価格は上昇、為替は同水準での推移を想定しています。

2) 24 ページ 予想比較 資源セグメント

説明資料の 24 ページ 損益分析 セグメント別－ 1 をご覧ください。

資源セグメントの売上総利益について説明します。ページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。

【資源セグメントの売上総利益】 1,070 億円（190 億円の増益）と予想しています。

①菱刈鉱山（3 月決算）、コテ金鉱山（12 月決算）

いずれも、金価格の上昇により価格差の好転を予想しています。コテ金鉱山は、2025 年 12 月に設計処理能力 100%を目指し、ランブアップを続けてまいります。

②海外銅鉱山（おもにモレンシー銅鉱山：12 月決算会社）

モレンシー銅鉱山は、銅価格の上昇により価格差の好転を予想しています。なお、コスト単価差の好転は、操業コスト削減や効率向上の取り組みの成果等を見込んでいます。

次に持分法投資損益について説明します。

①セロ・ベルデ銅鉱山、カンデラリア銅鉱山（いずれも 12 月決算会社）

両鉱山ともに、生産計画に大きな変更はなく、12 月決算会社に適用される 1-12 月の銅価格の上昇による価格差の好転を予想しています。

②ケブラダ・ブランカ銅鉱山（12月決算会社）

JV パートナーでオペレーターのテック社（カナダ）の発表のとおり、鉱石から金属を回収するプロセスについては立ち上がってきていますが、金属を回収した後の鉱石を貯留する設備への対応と、その影響をうけた生産計画の下方修正のため、2025年度の業績は8月予想時から悪化を見込んでいます。

現在進めている対応が完了すれば、ケブラダ・ブランカ銅鉱山は、競争力が高く、長期にわたり当社の収益基盤となる銅鉱山という位置づけは変わっていません。JV パートナーと引き続き協力し、操業の安定化に取り組んでまいります。

3) 25 ページ 予想比較 製錬セグメント

説明資料の25ページ 損益分析 セグメント別－2をご覧ください。

次に製錬セグメントについて説明します。ページ左上「売上総利益」のボックスをご覧ください。

【製錬セグメントの売上総利益】370億円（170億円の増益）と予想しています。

銅系では金価格と銀価格の上昇による在庫評価損益の好転、ニッケル系では価格の低迷と在庫評価損益の悪化がその要因です。それ以外の要因について説明します。

①銅系

その他：主に副産品である硫酸価格の上昇を予想しています。

②ニッケル系

ニッケル価格は8月業績予想から下落した水準を想定していることから、価格条件差が悪化すると予想しています。

4) 26 ページ 材料事業セグメント

説明資料の26ページ 損益分析 セグメント別－3をご覧ください。

材料セグメントの製品群別売上高です。

電池材料事業については、販売価格に連動する金属価格下落の影響等により、減収と予想しています。

なお、正極材品種切り替えの予定に変更はありません。

また、足元では、事業の立て直しにむけ、コスト削減や生産体制の見直しを進めています。今後の市場成長を見据え、引き続き、要素技術の開発、生産性の改善、正極材の性能向上、コスト削減など競争力の強化に努めてまいります。

機能性材料事業については、電子部品市場における需要には濃淡がありますが、全体としてはデータセンター関連の電子部品向け部材の好調な推移を見込んでいます。

以 上